



丸小だより

～ 実践目標 自分が輝く、みんなも輝く～

平成 30 年 10 月 31 日 (水) No. 7
横浜市立丸山台小学校長 新井 篤志

子ども・家庭・学校は地域から支えられている

校長 新井 篤志

ようやく秋らしい気候となってきました。今年度の運動会は例年に比べて肌寒かったですが、スローガン「平成最後 全力を出し切って 思い出に残る運動会にしよう！」のとおり、子どもたちは元気あふれる演技や競技を行い、熱くなれたと思います。また、PTA競技「つなひき」やひまわり音頭にも多数の保護者の参加があり、運動会を盛り上げていただき感謝申し上げます。

さて、先日、横浜市港南区保護司会の皆さんと港南区児童支援専任・生徒指導教諭の協議会に参加しました。保護司とは保護司法に基づき法務大臣から委嘱を受けた民間ボランティアです。主に非行や犯罪をした人に対して更生を図るための指導や支援をしたり、非行や犯罪を未然に防ぐための活動を行ったりしています。どの方も一般の地域の人です。この協議会では、地域で子どもたちの健全育成に関わっている保護司と学校の教員とが研修や意見交換を通して、子どもたちの成長のためにどのような取組をしていったらよいかを話し合います。今回は「不登校、ひきこもり」がテーマでした。現代の子どもたちが抱える問題はいろいろな要素が複雑に絡み合い、様々視点から子どもを見ていくことが大事であると思いました。そして何より、地域で子どもたちと真剣に向き合っている人たちの姿を教員が知ることの意義をあらためて感じました。

私も自分が住む地域で青少年指導員の仕事を2年間携わったことがあります。青少年指導員は神奈川県知事や横浜市長から委嘱を受けた民間ボランティアです。この仕事に関わっている人も一般の地域の方々です。いろいろな立場から青少年指導員となり、青少年の健全育成に関わる研修を受けたり取組をしたりしていました。夏休みには夜の地域の見回りをしたり、地域のお祭りやスポーツレクリエーションなどの企画や運営をしたりして、子どもはもちろんのこと親子でふれあえる場を設けたりしました。

これ以外にも、地域では自治会や町内会を中心に子どもたちや地域の人のためにボランティアとして活動している人がたくさんいます。自分が保護司会に参加したり、青少年指導員の仕事をしたりして感じることは、地域の子どものことを考え、見守り、支える活動をしている人がなんと多いことかです。

サン＝テグジュペリの『星の王子さま』の有名なフレーズ「かんじんなことは、目にみえない」があります。子どもたちが生活する主な場所は家庭であり学校であります。最近では、地域で生活しているという視点が薄くなりがちです。子どもたちだけでなく、子どもが暮らす家庭も、学校も地域の様々な人から温かく見守られていることを感じられたら、現代社会の課題といわれる人と人とのつながりを結ぶことの一助となるのではないのでしょうか。

